

進捗報告書（実行団体）

事業名:	地域密着型、困難家庭へのアウトリーチ事業
資金分配団体:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	特定非営利活動法人ダイバーシティ工房
実施時期:	2020年12月～2021年11月
事業対象地域:	千葉県市川市周辺地域
事業対象者:	生活の困りごとを抱える市川市内周辺の子ども・若者及びその家庭

Version 1.2

日付: 2021年6月14日

I. 事業概要

事業概要
千葉県市川市及び船橋市、松戸市、浦安市等の近隣地域において、生活の困窮や家族との関係性、就労や進学等について悩みを抱える子ども・若者とその家庭に対して、SNS相談、食料配布や学習支援、進路相談、居場所の提供などの支援を行います。学校や子ども食堂など、子ども・若者たちが繋がる地域資源や居場所と連携し、対象となる子ども・若者及び家庭の状況を把握することで、困難な状況下にある対象者を確実に支援に繋げていきます。対象者とはSNS相談への登録を通じて継続的なつながりを維持し、切れ目のない支援を提供できる環境を整えます。

II. 進捗報告の概要

総括
前期は主にチラシ配布と、配布先の中学・高校への電話連絡など広報に注力しました。またLINE相談や学校教諭や地域の子ども食堂等と連携し、困難な状態に置かれている子どもたちを学習支援、食料支援、シェルターの紹介などへと繋げています。引き続き支援が必要な子どもたちと早期に出会うため、現状の活動に加えてチラシの追加配布や定時制高校内の居場所カフェ運営参加など、活動範囲を広げていきます。

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
①市川市周辺地域在住の子ども・若者94,000人（市川市公立小中29,000人＋船橋公立小中45,000人＋市川近隣高校20,000人）のうち、支援を必要としている子どもたちに活動周知がきている状態	①約10,000枚のチラシをおよそ260ヶ所に配布し、周知を図りました。校内への掲示、保健だよりへの掲載などしていただいた学校もありました。今後松戸市・浦安市・柏市・鎌ヶ谷市などの近隣地域の高校にもチラシを追加で配布予定です。
②①に加えて、地域連携支援員が地域関係機関や学校との連携を行い、直接支援が必要な子どもたちの情報を把握しアプローチした結果、必要な支援が届けられている状態	②地域で行われる会議や打ち合わせ、実際の支援現場に計11回参加し、5月末までに下記支援を行いました。 ・LINE相談登録者数：23名 ・食料支援：51名（実人数）、119名（のべ人数） ・学習支援：12名（実人数）、27名（のべ人数） ・シェルター新規問い合わせ数：2名
③対象となる子ども・若者・家庭が、支援を受ける前と比べて「生活の困りごとが軽減されている」と感じられる状態	③目標である「支援対象者の服装、表情、行動、言動などから生きることに前向きになっている姿が見られる」に関して、支援対象者ならびに支援者へのアンケート・ヒアリングを事業期間を通じて実施していきます。5月までで、 ・学習教室に通う中学生：「当初おしゃべりが多かったが学習に前向きになってきた」 ・シングルマザーのご家庭：食料配布を通じ「美味しく食事することができるようになった」 ・定時制高校の生徒：「食料支援に毎回顔を出すようになった」 などの変化が見られています。

活動	進捗状況	概要
チラシ作成及び配布 2020年12月～2021年4月	ほぼ計画通り	市川市・船橋市を中心に、周辺地域の小・中学校134校、高校25校、105の関係支援機関及び行政に、計9,745枚のチラシと、計9,980枚の携帯用カード(LINE相談のQRコードを記載)を配布。
既存ネットワーク、関係機関を通じた活動周知、情報交換ほか 2020年12月～2021年11月	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・市川・浦安地域の「中核地域生活支援センター」「若者サポートステーション」「児童家庭支援センター」「特別支援学校」「病院児童精神科」とのネットワーク会議に5回参加。 ・千葉県立市川工業高等学校、NPO法人、中核地域生活支援センター、子ども食堂との居場所カフェ会議を3回実施。 ・千葉県立生浜高等学校との居場所カフェ会議を1回実施。 ・市川市塩浜地域の「塩浜子ども食堂」主催の学習支援教室に地域連携支援員が2名、2回参加。
上記活動を通じたアウトリーチを間口とした支援 2020年12月～2021年11月	ほぼ計画通り	<p>【LINE相談】23名が登録。内14名は関係機関を通じて、残りはチラシを見て登録。「子ども・若者」を対象としていたが、保護者からの相談もあった。「家にいたくない」という高校生から相談を受け、LINE相談の後、法人のシェルターに繋がったケースがあった。</p> <p>【食料支援】定時制高校の夜間部に通う高校生に対して月2回直接食料配布を実施。コロナ禍でアルバイトが減り、食料に困っていた定時制高校生や、大家族で食べ物に困る高校生たちと繋がる。また各学校に配布したチラシや、市川市内の子ども食堂及び市内のNPO法人が運営するフードバンクから繋がった困窮家庭8世帯30名に対して約2ヶ月間食料を郵送。</p> <p>【学習支援】市川市内の子ども食堂が新たに立ち上げた学習支援教室に地域連携支援員が参加。12名の小中学生に対して学習支援を実施。</p> <p>【その他】今後千葉県内の定時制高校にできる予定の居場所カフェの立ち上げ・運営に参加。生活に困りごとを抱える高校生に対して居場所・生活支援、中退予防支援を実施。</p>
対象者へのアンケート・ヒアリング調査 2021年8月、11月	ほぼ計画通り	「支援対象者の服装、表情、行動、言動などから生きることに前向きになっている姿」に関しては、事業期間中を通じて変化を記録。 支援対象者へのアンケートに関しては今後実施予定。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>本事業では「生活の困りごとを抱える市川市周辺地域の子どもや家庭が、LINE相談、食糧支援、学習支援、緊急シェルター、他機関への接続などの支援を受けることで、対象者の生活困難や虐待・孤立のリスクが軽減している状態」を1年後の目標として設定し、年間を通してのべ1,000名を超える子ども・若者・家庭に直接支援を届けることを目指しています。事業実施前半はチラシの配布を通しての周知をはじめ、学校現場や地域の子ども食堂やフードパントリーと連携したことで、困窮家庭の子どもや家庭に支援を届け始めることができました。事業後半は引き続き地域連携支援員が学校現場や地域の支援現場に直接赴く他、定時制高校内で立ち上がる居場所カフェ事業を通じて、学校内部の隠れた困窮家庭の子どもたちと繋がり、必要な支援に繋いでいくことを目指します。今後新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて直接支援の活動に制限がかかることを見据え、LINE相談をあわせて活用しながら子どもや家庭の状況を継続して把握していきます。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥146,600	¥7,325,400	¥7,472,000	¥188,308	2.52%
	管理的経費	¥0	¥1,528,000	¥1,528,000	¥0	0.00%
合計		¥146,600	¥8,853,400	¥9,000,000	¥188,308	2.09%
補足説明		11月～3月までは広報活動や関係者会議参加などネットワークづくりに時間を割いたため、予定より予算執行率が低くなっています。4月以降LINE相談件数や食料・日用品配布件数が伸びている状況です。 また事業計画書の変更に伴い、人件費の変更を行っています。				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

学校へのチラシ配布については、実施時期が3～4月と卒業式や入学式、教員や生徒の入れ替わり時期と重なったこともあり、こちらからの送付後すぐに生徒への配布とは至らなかった場合があったことが学校へのヒアリングにて判明しました。4月以降徐々にチラシからLINE相談への流入が確認されています。再度同地域への配布が必要かどうかについては検討を行いつつ、市川市船橋市以外の地域にも配布を実施していきたいと考えています。また活動対象地域におけるまん延防止等重点措置の発令・延長により、学習教室では拠点での食事の提供を中止し、お弁当の配布に切り替えています。食料配布実施や地域の子ども食堂の活動参加においても感染が拡大しないよう、職員や利用者のマスク着用、手指消毒を徹底するなど今後も十分に感染対策を実施していきます。

VII. その他

自由記述

- ・前半の活動を通じて、チラシ配布やSNS広報だけでなく、直接地域へ足を運び密な関わりを築く必要があるということを改めて感じました。例えば子ども食堂に足を運んだ際には、地域で強いコネクションをもつ方との繋がりを通じて家庭の困難さがより明らかになったというケースが存在しました。また、高校に足を運んだ際には、そもそもSNSをやっていない、携帯電話を所持していないというケースも存在しました。困難な状況下にある子どもたちと早期に出会えるよう、方法を組み合わせながらアプローチしていく必要性を感じています。
- ・地域連携活動において、すでにその地域で活動されている方々との意見のすり合わせが必要な場面が多くありました。地域の方々がどのような意図をもって活動しているかということの理解・尊重と、私たちはどの点で協力・貢献できるのかといったことの調整が、地域連携においては今後も必要であると感じます。
- ・LINE相談に、夜間の家出や自傷行為を繰り返す緊急対応が必要なケースが寄せられました。実際に支援員が現場に赴き対応していく中で、警察との関わりが必要になりましたが、その際警察の方としては悪気はなくても子ども・家庭を傷つけかねない発言がみられました。支援が必要な子どもや家庭が何かあったときに助けを求められることができるよう、精神疾患や被虐待経験などを持つ子どもとの関わり方について地域の子ども支援に携わる方々全体で共有していく必要を感じています。

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	船橋よみうり新聞（2021年3月13日） https://bit.ly/3vODJZu
広報制作物等	有	チラシ10,000部 携帯用カード10,000枚 HP: https://www.musubime-diversitykobo.org/musubime-youth
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置及びJANPIAの窓口を利用。窓口については事務所内への掲示と、内部情報共有システムにて周知を行う。